

サムイル・モイセエーヴィチ・マイカパル

(ロシア)

語: Самуил Моисеевич Майкапар; 英語: Samuil Moiseevich Maykapar, 1867年12月18日 – 1938年5月8日)は、帝政末期からソ連邦建国期にかけて活躍した、ウクライナ出身のユダヤ人ピアニスト・作曲家。

ヘルソンに生まれるが家族に連れられてタガンログに移り、同地で幼児期を過ごす。アントン・チェーホフの母校である男子寄宿学校に在籍し、その間、タガンログ・イタリア歌劇場の監督、ガエターノ・モッラの個人指導で音楽を学んだ。1885年に卒業すると、ペテルブルク音楽院に入学し、同時にペテルブルク大学で法学を学んで1891年に卒業する。1893年に音楽院よりディプロマを得ると、1898年までテオドール・レシェティツキーのもとでピアノの手技に研ぎをかけ、ベルリンやライプツヒ、モスクワや郷里タガンログなどの都市で数多くの演奏会を開いた。

1898年から1901年まで、ペテルブルクではレオポルト・アウアーと、モスクワではヤン・フジマリーと演奏会を行なう。1901年にトヴェリに音楽教室を開き、1903年から1910年まではモスクワに住んでドイツに演奏旅行を行なった。同地では、セルゲイ・タネーエフの「音楽学サークル」の会員として積極的に参加し、幹事長も務めた。

1915年にペテルブルク音楽院教授に就任。1927年には「ベートーヴェン没後100周年記念事業」の一環として、7夜にわたってレニングラード音楽院小ホールでベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲連続演奏会を敢行した。

1938年にレニングラードにて歿。

作品に、300曲の小品と、いくつかの学術的な著作がある。最後の著作『修業時代』は、タガンログでの少年時代や学生生活を振り返った回顧録である。ペテルブルク音楽院の教授を務めており、教育用の傑出したピアノ小曲によって国際的に名高い。

Op.28 小品集

第1曲 お庭で Op.28-1

第2曲 幼い孤児 Op.28-2

第 3 曲 幼い羊飼いの少年 Op.28-3

第 4 曲 秋 Op.28-4

第 5 曲 ワルツ Op.28-5

第 6 曲 不安なとき Op.28-6

第 7 曲 ポルカ Op.28-7

第 8 曲 つかの間の幻 Op.28-8

第 9 曲 子ども司令官 Op.28-9

第 10 曲 お話（おとぎばなし） Op.28-10

第 11 曲 メヌエット Op.28-11

第 12 曲 ちょうちょう Op.28-12

第 13 曲 おもちゃ箱 Op.28-13

第 14 曲 葬送行進曲 Op.28-14

第 15 曲 子守歌 Op.28-15

第 16 曲 水夫の歌 Op.28-16

第 17 曲 伝説 Op.28-17

第 18 曲 プレリュードとフゲッタ Op.28-18

第 19 曲 やまびこ Op.28-19

第 20 曲 ガヴォット Op.28-20

第 21 曲 春 Op.28-21

第 22 曲 セブンリーグブーツ Op.28-22

第 23 曲 スケートリンクで Op.28-23

第 24 曲 雲 Op.28-24

第 25 曲 ロマンズ Op.28-25

第 26 曲 森の中の騎手 Op.28-26